

府民・行政ニーズに応える 研究機関運営



環境農林水産総合研究所

研究所について

○研究所を構成する4サイト

環境農林水産総合研究所

<本部>

環境科学
センター

食とみどり
技術センター

水産技術
センター

水生生物
センター

大府府
環境農林水産総合研究所

環境科学センターの業務

○環境情報の発信

- ・光化学スモッグ予報等の発令
- ・行政計画のための環境データ予測・解析
- ・環境の状況を府民に提供
- ・環境ホームページ「エコギャラリー」
- ・環境白書 など



○環境監視・分析・調査研究

- ・大気・公共用水域・地下水質等環境の常時監視
- ・ダイオキシン類、有害大気汚染物質の常時監視
- ・PM2.5等新たな監視物質に係る調査研究
- ・緊急時の対応(環境分析等)



大阪府
環境農林水産総合研究所

環境科学センターの業務

○環境教育・学習の推進

- ・環境情報プラザの運営
- ・実験室、研修室、情報コーナーの無料開放
- ・子ども環境デー等イベントの開催



○環境に関する研究開発支援・技術開発

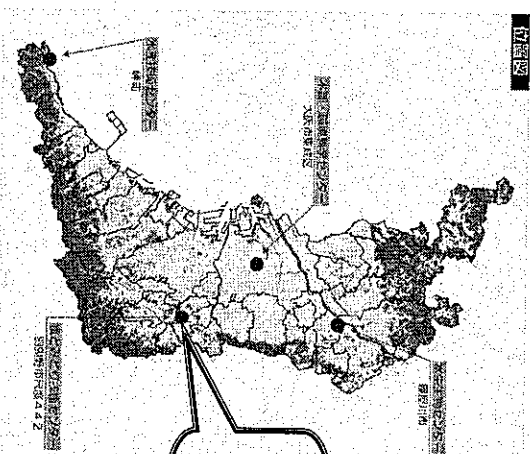
- ・おおさかエコテックの運用
- ・大阪府内の中小企業が開発した環境技術を評価し、普及を支援
- ・環境技術実証事業の実施
- ・環境技術を第三者が客観的に実証



○国際協力

大阪府
環境農林水産総合研究所

食とみどり技術センターの位置



大鵬府
環境農林水産総合研究所

食とみどり技術センターについて

●所在地：羽曳野市

●沿革：

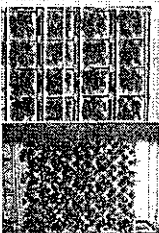
- ◆大正8年 農事試験場として発足
 - ・昭和25年 農業試験場に改称
- ◆昭和38年 農林技術センターに改称
- ◆平成14年 淡水魚試験場と統合、食とみどりの総合技術センターに改称
- ◆平成19年 三機関が統合し、「環境農林水産総合研究所 食とみどり技術センター」として発足

大鵬府
環境農林水産総合研究所

食とみどり技術センターの業務

○都市に豊かなみどりを

- ・ナラ枯や放置竹林の対策
- ・校庭の芝生化や緑化手法
- ・鳥獣被害の防止対策
- ・ため池の水質浄化技術



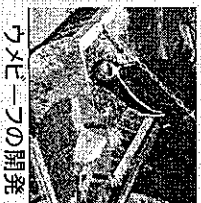
ポットレス苗の壁面緑化



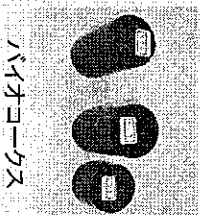
野生シカの行動解明

○バイオマスの利用

- ・固体燃料化やメタン発酵技術
- ・食品廃棄物の機能性飼料化
- ・森林バイオマスの活用
- ・耕畜連携の推進



ウメビークの開発



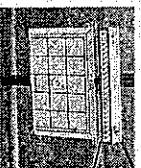
バイオコーラス

大阪府
環境農林水産総合研究所

食とみどり技術センターの業務

○環境にやさしい大阪産（もん）の生産技術

- ・電子技術や天敵による病害虫防除
- ・土作り技術や土壌汚染の軽減技術
- ・低コスト・省力・省エネ栽培技術
- ・抵抗性品種を活用した減農薬栽培



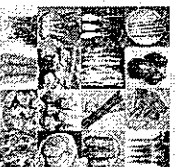
LEDによる害虫防除



気化熱利用のイチゴ栽培

○戦略的な大阪産（もん）の開拓

- ・伝統野菜の発掘や新たな利用法開発
- ・新系統や奨励品種の選抜と種苗供給
- ・農畜産物の品質評価と機能性の探索
- ・6次産業化の推進



伝統野菜の発掘



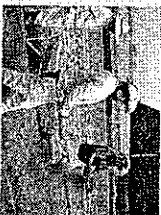
肉質の光学的評価

大阪府
環境農林水産総合研究所

食とみどり技術センターの業務

○「農とみどり」の人材育成

- ・養成科での担い手育成
- ・プロ農家の短期養成
- ・営農指導や農業教育者への技術普及
- ・緑化技術者への技術普及
- ・園芸福祉ボランティアの養成



農大養成科実習



短プロ養成講座

○府民への技術発信

- ・技術相談への対応
- ・研究成果を活用した園芸セミナー
- ・イベントを通じた食育活動や研究紹介



園芸セミナー

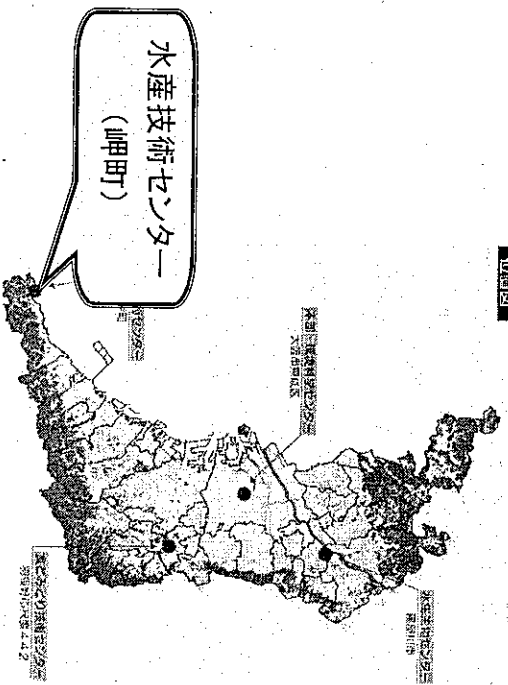


子供体験教室

大鰐府
環境農林水産総合研究所

水産技術センターの位置

大鰐府



水産技術センター
(岬町)

大鰐府
環境農林水産総合研究所

水産技術センターについて

●所在地：泉南郡岬町

●沿革：

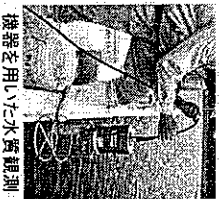
- ◆昭和13年 水産指導所として発足
- ◆昭和17年 水産試験場に改称・泉北郡高石町に移転
 - ・昭和42年 岬町に移転
- ◆平成3年 附属栽培漁業センター開設
- ◆平成19年 三機関が統合し、「環境農林水産総合研究所 水産技術センター」として発足

大坂府 環境農林水産総合研究所

水産技術センターの業務

○海を見守る

・環境の変化を知るため継続して海洋観測を実施



機器を用いた水質観測

・食の安全を守るために貝毒原因プランクトンの発生を監視



1 栄養塩分析
1 貝毒原因
プランクトン

○海を再生する

・水質の浄化機能や幼稚魚の育成場の役割が失われた海辺の再生をめざし、造成した干潟・岩礁の機能を調査



人工干潟の幼稚魚調査



人工岩礁で群れる魚

大坂府 環境農林水産総合研究所

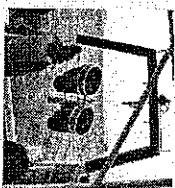
水産技術センターの業務

○魚を調べる

・漁業経営安定化を目的として、水産生物の資源状況や生態・分布を調べ、効率的な資源管理方法を検討している



市場での漁獲物測定



イカナゴ稚魚分布調査

○魚を増やす

・栽培漁業による水産資源の増大をめざして、稚魚の人工生産技術や幼稚魚の放流技術開発、放流効果調査を行っている



漁業者によるサクラの放流



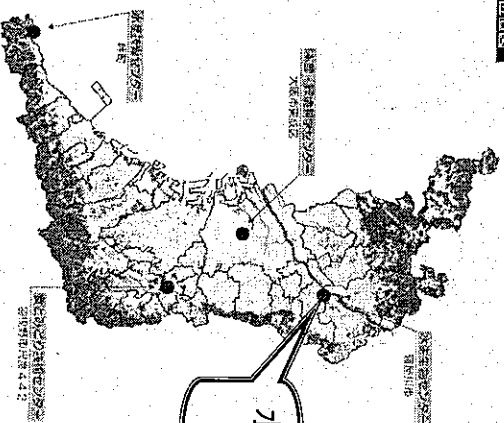
漁獲されたキジハタ標識魚

サクラの
耳石標識

大鵬府
環境農林水産総合研究所

水生生物センターの位置

〒719-0292



水生生物センター
(寝屋川市)

大鵬府
環境農林水産総合研究所

水生生物センターについて

●所在地：寝屋川市

●沿革：

- ◆昭和30年 水産試験場寝屋川養魚場として開設
- ◆昭和42年 水産試験場から分離・淡水魚試験場として発足
- ◆平成14年 食とみどりの総合技術センターと統合
 - ・水生生物・水辺環境保全に係る調査研究部門の「水生生物センター」として発足
- ◆平成19年 三機関が統合し、「環境農林水産総合研究所水生生物センター」となる

大阪府
環境農林水産総合研究所

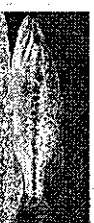
水生生物センターの業務

○水辺の環境と生態系の保全

- ・天然記念物イタセンバラなど、絶滅の危機にある生物の保存と生息環境の保全
- ・イタセンバラの人工繁殖技術の開発、淀川での試験放流
- ・オオクチバスなど外来水生生物の駆除方法の開発と実証試験
- ・安威川ダム建設によるアジドジョウなど希少魚への影響把握と対策の提言



天然記念物 イタセンバラ



特定外来生物



オオクチバス

ホタルウキクサ

大阪府
環境農林水産総合研究所

水生生物センターの業務

○魚病の診断と水道水の危機管理への貢献

- ・コイヘルペスウイルス病など
特定疾病のまん延防止
- ・淀川での魚病検査と
コイセンサーの開発



冷水病のフナ



魚病のDNA診断

○水辺の環境教育と成果の普及

- ・シンポジウム、出前講座、成果の展示など
による研究成果の府民への還元
- ・府民参加(サポータースタック)によるイベントの
開催とリーダーの養成

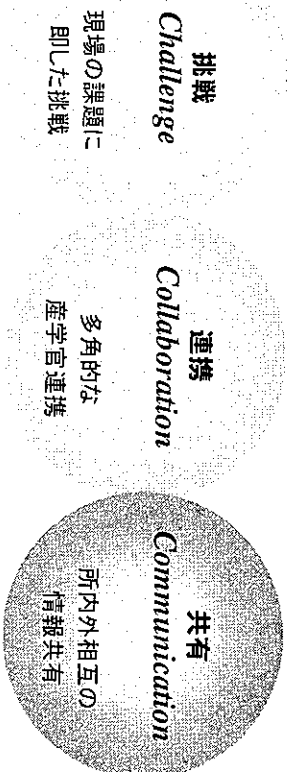


府民リーダー養成

大阪府
環境農林水産総合研究所

研究所の運営方針

○運営コンセプト



▶農林水産業振興や環境監視・分析といった試験研究機能に加え、山から川、海、または都市から農空間といった一連のフィールドを研究対象とし、環境に重点をおいた新たな試験研究を推進するとともに、効果的な成果の還元や効率的で透明性のある運営に努める。

大阪府
環境農林水産総合研究所

研究所の使命

○研究所の機能・役割

危機管理事象への対応

大気・水質環境や食の安全等に関する
現状把握、汚染・事故時の迅速な対応

府民への正確な情報の提供

府民や事業者に正確な情報提供、技術
移転、研究コーディネート、人材育成

地域に根ざした調査・研究

「現場基点」で問題を把握、府の実情
に応じた研究・指導

行政のシンクタンク機能

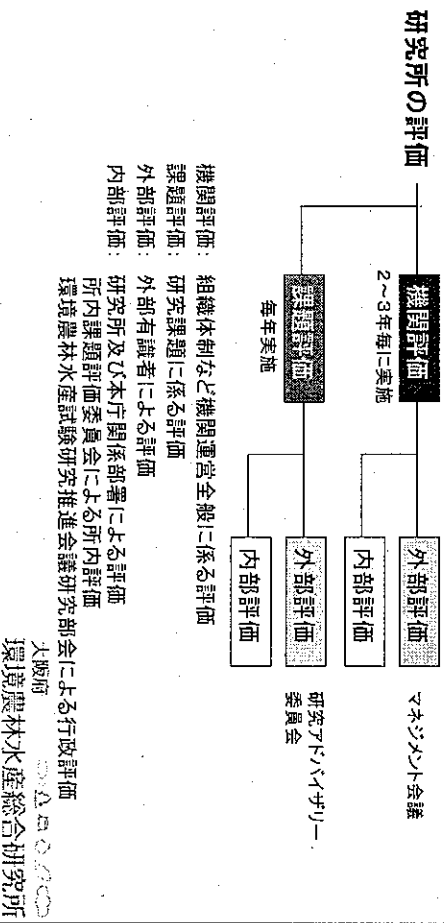
大阪府や市町村の計画立案や施策推進に必要な
データの収集、調査、解析等の機能

大阪府
環境農林水産総合研究所

研究所の評価方法

○研究所の機関評価・研究課題評価

研究評価システムによる研究評価を実施し、研究所の運営全般あるいは研
究の改善に努めるとともにその結果を公表しています。

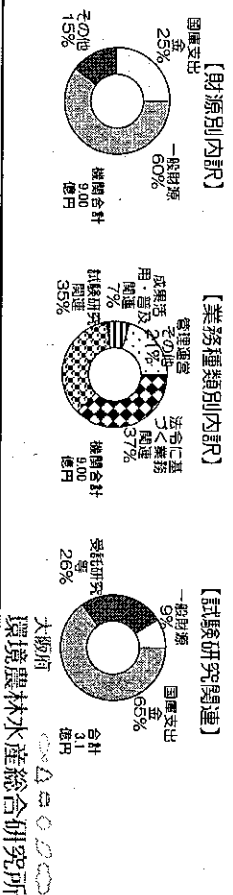


研究所の組織体制

○研究所の人員（平成23年4月18日現在）

	所長	行政事務職	行政技術職	研究職	現業職	計
本部	1	10	14	4	—	29
環境科学C	—	—	43	1	—	44
食とみどり技術C	—	6	11	35	21	73
水産技術C	—	1	—	9	3	13
水生生物C	—	—	—	6	—	6
合計	1	17	68	55	24	165

○研究所の予算概要（平成23年度）



ご清聴

ありがとうございました。



環境農林水産総合研究所